

ロジクールRALLY BAR（BYOD会議室用）の ANALYST GAUNTLET

フロスト&サリバンのAnalyst Gauntletは、系統的なレビュープログラムです。プログラムに参加するベンダーやサービスプロバイダーは、業界アナリストに向けて自社のコラボレーションソリューションの詳細な解説やデモンストレーションを行います。その後アナリストが、コラボレーションソリューションを実際に一定期間使用し、ユーザー体験の率直なフィードバックを提供します。

フロスト&サリバン Connected Workリサーチ チームは、ロジクールの新しいビデオ会議デバイスであるRally Barを評価しました。Rally Barは、2021年2月発売の一体型ビデオバーです。カメラ、マイク、スピーカー、処理ソフトウェアを搭載しています。Rally Barは、新しいロジクールRallyファミリーにおいて、中会議室向けモデルに相当します。Rallyファミリーを構成する一連のインテリジェント エンドポイント機器には、小会議室向けのRally Bar Mini、大会議室向けのRally Plusもあります。

ロジクールでは、Rally Barを「一般的なビデオ会議サービスと密接に連携する最先端ソリューション」として位置づけ、3種類の導入モードを用意しています。

- アプライアンスモード。Androidベースのスタンドアロンソリューション
- USBモード。会議室用Windows PCおよびMacと接続
- BYOD（Bring Your Own Device）モード

本レビューでは、Rally BarをBYODモードで設定、設置、管理して、さまざまなクラウド会議サービスを使用します。これを、技術的なトレーニングを受けておらず、現地でIT部門によるサポートも受けられないリモートユーザーの立場として行い、そのユーザー体験を詳細にレポートします。機器構成は、Rally Bar、ロジクール Tap会議室用タッチコントローラ、Dell製ノートPC（Windows 10、Intel Core i7プロセッサ搭載）、Samsung製42インチ4Kテレビ（会議室用ディスプレイとして利用）です。Rally Barとテレビは、会議テーブルから約2m離れた標準的な高さの台に設置しました。TapコントローラとDell PCは会議テーブル上に配置しました。当社の中会議室では、拡張マイクや追加スピーカーは必要ありませんでした。届いたときのRally BarとTapは、各コンポーネントおよびケーブルともに、緩衝材でしっかりと保護されて梱包されていました。

ロジクールRALLY BAR (BYOD会議室用) のANALYST GAUNTLET (続き)

本評価で使用した主要コンポーネント：

Rally Bar

Rally Bar本体の寸法は幅910mm、高さ164mm、奥行き130.5mmで、レンズ奥行きは28.8mm

- 重量は7.08kg
- 内蔵AIビューファインダーおよびPTZ（パン・チルト・ズーム）カメラ
- スピーカーx2および集音範囲4.5mのビームフォーミングマイクx6からなるオーディオ機能



リモコン

PTZカメラ

- 解像度：4KおよびSD@30fpsに対応
- パン：電動式±25°
- ティルト：電動式±15°

メインカメラ

- ズーム：15倍HDズーム（5倍光学、3倍デジタルが、今後のソフトウェア更新により利用可能）
- 画角：90°
- 会議室内のカバー範囲：水平画角82.1°、垂直画角52.2°

会議室内の総カバー範囲（画角 + PTZ）：水平163° x 垂直110°

オーディオ - スピーカー

- ドライバ：70mmx2
- 出力：92dB SPL @1W、99dB SPL @8.0W、共に+/-2dB @0.5メートル
- 感度：90+/-3dB SPL @ 1W、0.5メートル
- 全高調波歪み率：1kHz < 2%
- スピーカーサンプリングレート：48kHz

出典：フロスト&サリバ

ロジクールRALLY BAR（BYOD会議室用）の ANALYST GAUNTLET（続き）

オーディオ マイク

- 周波数特性：90Hz～16kHz
- 感度：>-36dBFS +/-1dB@1Pa
- マイクのデータレート出力：48kHz
- 集音範囲：4.5m
- 無指向性デジタルMEMSマイクx6を含むビームフォーミング要素が5方向のアダプティブ音響ブロードサイドビームを形成
- AEC（アコースティック エコーキャンセレーション）、VAD（音声区間検出）によるオーディオ処理
- ノイズ抑制AIフィルター
- 最大3台までの追加のRallyマイクポッドで、会議室内のカバー範囲を拡張可能

接続性

- HDMI出力ポートx2、HDMI入力ポートx1
- USB-Aポートx3、USB-Cポートx1
- 100/1Gイーサネットポートx1
- 802.11a/b/g/n/ac WiFi
- ロジクールRallyアクセサリ専用外部マイク入力
- Bluetooth Low Energyリモコン



Tap会議室 コントローラ

- 寸法：幅244 mm、高さ58mm、奥行き179mm、重量：1.25kg
- タッチスクリーン：10.1インチ、ディスプレイ角度14°、解像度1280 x 800
- 対応OS：Windows 10、Chrome OS（バージョン80以降）、ロジクールCollabOS
- インターフェイス：USB 2.0/3.0/3.1タイプC（Rally用）、USB 2.0（アクセサリ用）、HDMI（ビデオおよびコンテンツ用）、3.5mmヘッドセットジャック



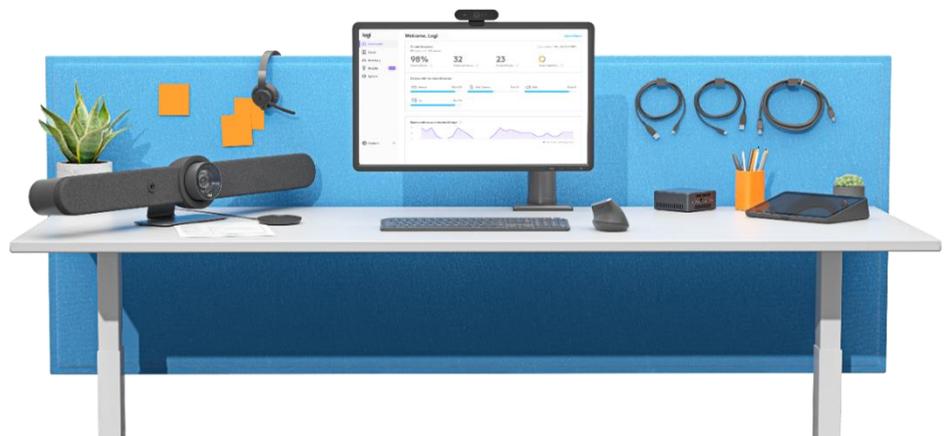
出典：フロスト&サリバ

ロジクールRALLY BAR（BYOD会議室用）の ANALYST GAUNTLET（続き）

管理者体験

- 管理者は、ウェブベースのビデオ会議室管理ツールであるロジクール Sync管理ユーティリティと、Tapコントローラをさまざまに使用して、Rally Barの機能の設定、コントロール、更新、調整を行えます。Rally Barには複数の導入オプション（会議室用Windows PC、アプライアンス、BYOD、シングル/デュアルモニターなど）があるため、設置ガイドも多数、ロジクールウェブサイトで公開されています。機器のパッケージに設置ガイドが同梱されていなかったため、ロジクールウェブサイトで今回の構成に適した設置図を見つける必要がありました。設置作業そのものは20分足らずで完了しましたが、設置図探しにはそれ以上の時間がかかりました。
- 総合的には、Rally Bar（BYOD会議室用）の導入はきわめてスムーズに完了できました。最適な会議室用コンピュータ デバイスを選択できることで、購買担当者は、幅広いフォームファクター、価格帯、サプライヤーの中から選択することができます。プロセッサ要件の高い、高品質/高パフォーマンスのマルチメディアアプリケーションをサポートするには、適切な処理能力を備えたコンピュータを導入することが不可欠です。慣れ親しんだOS搭載の適切なコンピュータを導入すれば、管理者体験およびユーザー体験が向上し、ヘルプデスク チケットの発行数も抑えられます。さらに、一体型エンドポイント機器であるRally Barを導入する場合は、スタンドアロンのカメラ、マイク、スピーカーを会議室に設置する場合と比べて、調達、設置、設定、管理が必要なコンポーネントの数を少なく抑えられます。この一体型のフォームファクターと、Rally Barに組み込まれたロジクールが重視するケーブル管理機能により、すっきりと設置できました。

管理者体験 についての分析



出典：フロスト&サリバ

ロジクールRALLY BAR（BYOD会議室用）の ANALYST GAUNTLET（続き）

長所



- Rally BarをBYODモードで導入すると、フォームファクター、オペレーティングシステム、価格、ブランドなど、幅広い選択の中からコンピュータを選択できる柔軟性がもたらされます。これにより、企業は好みのサプライヤーで標準化を行え、コスト効率を高められます。
- Rally Barの各ポートとインターフェイスは、明確に識別することができます。Rally BarもTapも、ケーブルの数が最小限なうえ、配慮の行き届いたケーブル管理機能を備えているため、会議室にすっきりと設置できます。
- ロジクールRally Barはパワフルで、広いカバー範囲を備えています。拡張マイクポッドや追加スピーカーがなくても、さまざまな中会議室の広さや座席構成に対応できる適切な集音範囲と可聴範囲を備えています。
- Rally Barのロジクールの各種アクセサリ（Rally Bar MiniおよびRally Plusでも利用可能）に対応しています。会議室の広さに関係なく使用できるものを標準としてそろえられるので、在庫管理要件の合理化が可能です。
- コンテンツ共有は、BYODコンピュータに搭載のブラウザ、ハードドライブ、クラウドサービスから直接行うことも、会議室内の他のコンピュータ デバイスとBluetoothでペアリングしたRally Barを介して行うことも可能です。慣れ親しんだ機能で利用できるため、管理者に届くヘルプデスク チケットの数を抑えられます。
- 合計5種類のカメラ プリセットが用意されています（リモコンで2種類、Tapで3種類を適用可能）。会議室内の参加者が画角やフレーミングを調整しようとして物理的にカメラに触れることを、管理者は心配せずに済みます。TapまたはリモコンでPTZの調節や設定の変更を行えるので、各ユーザーのニーズを簡単に満たせます。

ロジクールRALLY BAR（BYOD会議室用）の ANALYST GAUNTLET（続き）

長所



- Rally Barに搭載されているロジクールRightSense AIテクノロジーは、人の姿の追跡、フレーミング、光補正を自動的に行い、会議室内やリモートからの参加者の音声をクリアに伝えます。RightSense AIにより、各会議室の定員に合わせて設定を調整する手間がある程度省かれて、ユーザー体験が向上します。また、管理者に日常的に届くサポート要請の件数が減少します。

短所



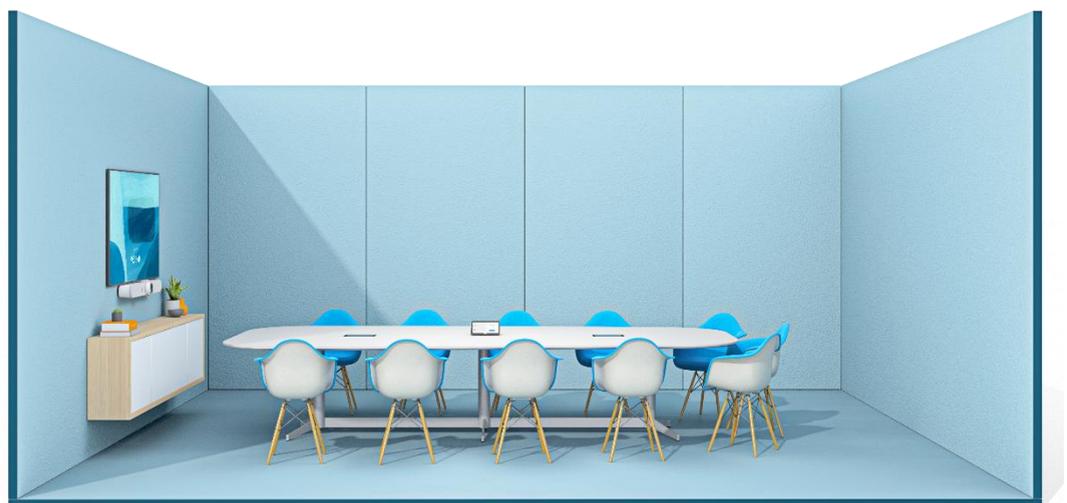
- 一般的にBYODでは、利用するビデオ会議サービスで要求される仕様（処理能力やOSバージョンなど）を満たしていないコンピュータを選択した場合、期待通りにパフォーマンスが発揮されないおそれがあります。
- Rally Barはサイズと重量が大きいため、壁面に取り付けるのであれば、場合によっては専門の設置サービスを依頼する必要があります。そうするとコストが余計にかかるうえ、会議室内における設置場所の自由度が下がります。

ロジクールRALLY BAR（BYOD会議室用）の ANALYST GAUNTLET（続き）

ユーザー体験

- Rally Barは、会議室内の参加者側とリモートからの参加者側の双方において、きわめてクリアなオーディオとビデオを提供しました。これはまさにロジクールが、最新の業界標準を活用した結果です。その業界標準とは、配慮の行き届いた設計、そして革新的なRightSense AIによる一連の自動化です。ハイエンドなRally Barでは、RightSense AIによって、シームレスな会議の実施が可能になっています。
- Tapコントローラを導入すると、会議の主催者が簡単かつ直感的に会議の予約、開始、参加、終了を行えるようになります。また、機能のコントロール（オーディオのミュート、ビデオの停止、音量調節、会議参加者の管理など）も可能になります。
- 自身のデバイスを使用できるため、慣れ親しんだユーザー体験がもたらされます。会議の主催者は、使い慣れたOS、メニュー、フォルダ、ブラウザ、ネットワークドライブを備えたコンピュータを使用できます。そのコンピュータで、コンテンツを共有してのコラボレーション、コンテンツの保存、チャット、ホワイトボードの共有、会議室ベースの会議の完全なコントロールを行えるため、より大きな自信を持てます。

ユーザー体験 についての分 析



ロジクールRALLY BAR（BYOD会議室用）の ANALYST GAUNTLET（続き）

長所



- 今回試したRally Barソリューションの音質は、きわめて高いものでした。ビームフォーミングマイクアレイ、アコースティックエコーキャンセレーション、音声区間検出、ノイズ抑制AIフィルターなどのオーディオテクノロジーで、クリアな通話が可能です。
- ロジクールRightSenseテクノロジー活用の自動カメラPTZにより、カメラがスムーズに操作されます。Rally BarではメインカメラがPTZに対応しており、会議室内の参加者をフレーム内に捉え続けます。
- Tapコントローラにより、会議室の主催者はさまざまな会議コントロール機能やコラボレーション機能を簡単かつ直感的に使用できます。対応機能は、会議の素早い開始、参加者の招待、会議IDまたは個人別リンクを使用した会議への参加、プレゼンテーション、会議のリスト、連絡先とカレンダー、音声通話（2人または3人以上）などです。主催者は会議中、オーディオとビデオのミュート、録音/録画、Rally BarのPTZカメラのコントロール、フレーミングプリセットの選択、参加者の管理などを行えます。
- 適切に構成すれば、BYODによってユーザー体験が向上します。設定、チャット、コンテンツの検索と共有、会議の完全なコントロールを、慣れ親しんだ自身のコンピュータから行えるためです（Tapからの操作も可能）。

短所



- BYOD会議室ソリューションすべてに共通する欠点として、ユーザーエラーのリスクが挙げられます。たとえば、意図しないセキュリティインシデント（マルウェア、機密情報の漏洩など）、会議室システムへの不適切な接続、会議室システム要件を満たしていないコンピュータデバイスの使用などです。

ロジクールRALLY BAR（BYOD会議室用）の ANALYST GAUNTLET（続き）

分析のまとめ

- 多くのビジネスリーダーが組織全体で内外とのコラボレーション能力を強化したいと考えています。そうしたリーダーにとって、ビデオ会議は最優先事項です。総合的に見て、Rally Barの優れた工学的特徴、設計、機能、品質は、価格の観点から他の製品と比較することは困難です。ユニークなデュアルカメラ、マイクアレイとスピーカーアレイ、AIと自動化、豊富な導入オプションを備えたRally Barには、直接的な比較対象が市場に存在しないのです。しかし当社は、価格設定は適正なものであると考えます。
- Rally Barは、複数の主要なビデオ会議プロバイダーによる会議室システムとの連携が認定されています。これにより、企業のミッションクリティカルなコラボレーションに関するニーズを確実に満たせます。さらに、上述のさまざまな機能によって企業は、ビデオ会議を単一のプロバイダーのサービスで標準化することも、複数のサービスを柔軟に利用することも可能になります。Rally Barはきわめて優れたソリューションであり、会議室機能の未来を示しています。企業はRally Barを導入することで、既存のソリューションを長期的に活用できます。

ロジクールRally Bar（BYODモード）のさらなる詳細については、[こちらをクリック](#)してください。